

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	憲法	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	三科 俊	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	弁護士として法律事務所に在籍・勤務						
授業のねらい (到達目標)	1. 憲法の基本観念と人権の概念について概念を説明することができる 2. 日本国憲法の基本原理と人権保障・統治構造の概念を説明することができる 3. 日本国憲法上の重要条文について通説・判例の見解を説明することができる						
授業概要	日本国憲法の特徴と全体像が理解できるような授業を行う。 日本国憲法の基本原理と具体的な条文とを架橋する体系的な説明を行うことによって日本国憲法の基本的事項・重要事項の理解をはかる。						
テキスト	「憲法」姫路大学						
授業計画	第1回	憲法と立憲主義					
	第2回	日本憲法史、日本国憲法の構成と基本原理					
	第3回	象徴天皇、平和主義の原理					
	第4回	人権宣言の歴史、人権の観念と類型					
	第5回	人権の享有主体、人権保障の限界					
	第6回	私人間における人権の保障と限界、包括的基本権①					
	第7回	包括的基本権②、法の下での平等					
	第8回	精神的自由権①					
	第9回	精神的自由権②					
	第10回	人身の自由、経済的自由					
	第11回	社会権①					
	第12回	社会権②					
	第13回	国務請求権、参政権、国民の義務					
	第14回	統治機構					
	第15回	財政、地方自治、憲法の保障					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期	
科目名	情報処理技術 I (基礎)	授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。					
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、掲示物・おたより・お知らせ文書ほか文書を必要とする書類などを作成する際にWordの知識と技術が必要となる。本教科では、Wordを基礎から学習し効率的に活用できるスキルを身につける。また、情報システムの発展と役割について理解する。					
授業概要	演習を通じ、パソコン環境設定、基本操作、Wordの基礎から活用操作まで学習し、MOS検定合格を目指す。また、テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。					
テキスト	Word2016セミナーテキスト基礎・MOS攻略問題集Word2016・情報リテラシーと処理技術					
授業計画	第1回	文書の作成と管理1				
	第2回	文書の作成と管理2				
	第3回	文字、段落、セクションの書式設定1				
	第4回	文字、段落、セクションの書式設定2				
	第5回	表やリストの作成1				
	第6回	表やリストの作成2				
	第7回	参考資料の作成と管理				
	第8回	グラフィック要素の挿入と書式設定1				
	第9回	模擬1(演習)				
	第10回	模擬1(演習)				
	第11回	模擬1(テスト)				
	第12回	模擬2(演習)				
	第13回	模擬2(テスト)				
	第14回	模擬3(演習)				
	第15回	模擬3(テスト)				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	情報リテラシー	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。						
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、掲示物・おたより・お知らせ文書ほか文書を必要とする書類などを作成する際にWordの知識と技術が必要となる。本教科では、Wordを基礎から学習し効率的に活用できるスキルを身につける。また、情報システムの発展と役割について理解する。						
授業概要	演習を通じ、パソコン環境設定、基本操作、Wordの基礎から活用操作まで学習し、MOS検定合格を目指す。また、テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。						
テキスト	Word2016セミナーテキスト基礎・MOS攻略問題集Word2016・情報リテラシーと処理技術						
授業計画	第1回	本演習のガイダンス、個人情報、Windows10セットアップ 授業データ・Office インストール					
	第2回	USBメモリの使い方、ネットワーク接続、インターネットの設定 ウイルスソフトの設定					
	第3回	プリンタ設定とテスト印刷、Windows up date					
	第4回	Officeライセンス認証、MOSWord模擬インストール					
	第5回	Adobe Acrobatインストール、PC初期設定変更、授業データについて					
	第6回	オペレーティングシステムの6つの管理項目					
	第7回	パソコンの基本操作、タッチタイピング、文字入力について、Wordの基本操作					
	第8回	新規文書の作成、文書の編集1					
	第9回	文書の編集2					
	第10回	文書の編集3					
	第11回	表の作成と編集1					
	第12回	表の作成と編集2、グラフィックスの利用1					
	第13回	グラフィックスの利用2、印刷					
	第14回	情報システムと社会生活との関わりについて					
	第15回	インターネット社会の光と影(調べ学習)					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期								
科目名	健康科学	授業形態	講義	単位数	1単位								
担当教員	池 茜	実務経験の有無	×										
実務経験教員の経歴	大学・短期大学等で講師として												
授業のねらい (到達目標)	1.「健康」の概念の変遷を理解し、我が国における健康の諸問題が説明できる。 2.生活習慣(特に運動、栄養、休養)の在り方が、より健康になるため必要条件であることを理解し、具体事例をあげて説明できる。 3.自分のBMIや行おうとする目標運動強度、運動によるエネルギー消費量などの計算ができる。 4.自分の生活習慣を把握し、より健康になるために何が必要で、どう取り組めばいいのか説明できる。												
授業概要	健康に影響を及ぼす主要な要因(運動、栄養、休養)及び嗜好品(タバコ、飲酒)について概説する。												
テキスト	健康科学												
授業計画	第1回	健康の概念の変遷と我が国の健康問題											
	第2回	栄養と健康①											
	第3回	栄養と健康②											
	第4回	運動と健康①											
	第5回	運動と健康②											
	第6回	休養と健康①											
	第7回	休養と健康②											
	第8回	嗜好品と健康											
	第9回												
	第10回												
	第11回												
	第12回												
	第13回												
	第14回												
	第15回												
単位認定 ・ 評価方法	中間レポート 期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		平常評価:授業態度、提出物等	総合評価算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%
期末	中間	平常	出欠										
50%	25%	10%	15%										
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する													

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期									
科目名	スポーツ(実技)	授業形態	実技	単位数	1単位									
担当教員	池 茜	実務経験の有無	○											
実務経験教員の経歴	大学・短期大学等で講師として													
授業のねらい (到達目標)	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を養う													
授業概要	各種のスポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。 仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持・増進を図る。													
テキスト	特になし													
授業計画	第1回	ラジオ体操・器械運動												
	第2回	ソフトバレーボール①												
	第3回	ソフトバレーボール②												
	第4回	バレーボール①												
	第5回	バレーボール②												
	第6回	バドミントン①												
	第7回	バドミントン②												
	第8回	ポートボール①												
	第9回	ポートボール②												
	第10回	バスケットボール①												
	第11回	バスケットボール②												
	第12回	スケート①												
	第13回	スケート②												
	第14回	ドッジボール①												
	第15回	ドッジボール②												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:服装及び授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	こども学概論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	知的障害児施設現場実践、地域子育て支援サークルでのボランティア活動、及び地域のこども会等を通して様々なこども達と関わった体験から垣間見えるこどもの現況を像を紡ぎだし、「子どもの最善の利益」を保障することの意義と課題について考える。						
授業のねらい (到達目標)	1、こどもを取り巻く状況が理解できる。2、こどもに関わる専門職として積極的にこどもを支援する姿勢を涵養する。3、教育場でこどもが直面している困難及びその援助・対応を学ぶ。						
授業概要	現代社会の急速な発展・変化は今を生きるこどもたちにも大きく影響している。かつて見られなかったこどもたちの状況には、将来を生きる彼らの命や暮らしや人生の在り方を危惧させる内容が散見される。それらについてのインシデントの検討を通して専門職としてのコンピテンシーを涵養する。						
テキスト	「こども学概論」(配本テキスト)						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	こどもたちの未来にみえるもの					
	第3回	障害を持つこどもたちから学ぶこと					
	第4回	今、教育に問われているもの					
	第5回	特異なこどもと健康なこどもとの隔たり					
	第6回	こどもはおとなの小型なのか					
	第7回	昔のこども・これからのこども					
	第8回	こどもに関わる専門職が持つべきコンピテンシー					
	第9回	事例検討①					
	第10回	事例検討②					
	第11回	事例検討③					
	第12回	事例検討④					
	第13回	事例検討⑤					
	第14回	事例検討⑥					
	第15回	まとめ及び効果測定					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施	授業時数の2/3以上の出席	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	教職論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	宮城県公立小中学校 1.5か年, 山形県小学校教員9か年, 国立大学法人教員養成大学および大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2か年						
授業のねらい (到達目標)	小学校教諭や幼稚園教諭等をはじめとする, 教職に対する理解を深めるとともに, 専門職としての教師に必要な素養の質的向上を図る。						
授業概要	教師像の歴史的変遷, 教師の特性, 教職を取り巻く現況, 教育実習について, 教員採用試験について						
テキスト	姫路大学「教職論」						
授業計画	第1回	教師とは					
	第2回	教員, 教師, 教職, 教職員の違い					
	第3回	教師像の歴史的変遷					
	第4回	教育課程と教師					
	第5回	教師の特性					
	第6回	教師の身分, 懲戒, 権利等					
	第7回	教師を取り巻く現況					
	第8回	教師を取り巻く現況					
	第9回	設題レポートについて					
	第10回	設題レポートについて					
	第11回	教師対象の研修, 初任者研修と10年経験者研修					
	第12回	教育課程と教師					
	第13回	教育課程と教師					
	第14回	校種間の連携, 幼小接続					
	第15回	校種間の連携, 幼小接続					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期									
科目名	教育原理	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無	○											
実務経験教員の経歴	宮城県公立小中学校 1.5か年, 山形県小学校教員9か年, 国立大学法人教員養成大学および大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2か年													
授業のねらい (到達目標)	教育思想, 世界の近代教育史, 日本の江戸末期から令和にいたすまでの大まかな教育史を学ぶことにより, 教育に関心を持ち, 理解を深められるようです。また教育制度面の特徴をつかめるようにする。													
授業概要	教育の基本的概念, 制度, 歴史面について理解を深めるとともに, 教育とは何か, 学校とは何かについて, 仕組みや方法, 意義をつかむ。													
テキスト	姫路大学「教育原理」													
授業計画	第1回	オリエンテーション「教育」「学校」「先生」-教育とは何か-												
	第2回	「教育」とは何か -ヒトとチンパンジーとの違い-												
	第3回	幼稚園・保育所・認定こども園・小学校の違い												
	第4回	教育思想家												
	第5回	教育思想家												
	第6回	「教育」の歴史 -近代日本の教育(江戸末期)-												
	第7回	「教育」の歴史 -近代日本の教育(明治・大正)-												
	第8回	「教育」の歴史 -近代日本の教育(大正)												
	第9回	「教育」の歴史 -近代日本の教育(昭和)												
	第10回	「教育」の歴史 -近代日本の教育-												
	第11回	教育における今日的課題												
	第12回	教育における今日的課題												
	第13回	教育における今日的課題												
	第14回	諸外国の教育												
	第15回	諸外国の教育												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											



# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	発達心理学	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	阿久津 洋巳	実務経験の有無		×			
実務経験教員の経歴	なし						
授業のねらい (到達目標)	1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を説明できること 2. 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を説明できること						
授業概要	発達心理学の必要性、発達に影響する要因、発達に関する主な理論、発達段階や発達課題についての知識を習得する。ヒトの各領域における発達の様相についての知識を習得する。						
テキスト	発達心理学(姫路大学)						
授業計画	第1回	発達とは					
	第2回	発達課題①					
	第3回	発達課題②					
	第4回	発達の規定因					
	第5回	愛着と親子関係					
	第6回	身体、運動能力の発達①					
	第7回	身体、運動能力の発達②					
	第8回	知覚機能の発達					
	第9回	自己概念の発達					
	第10回	自己コントロール、パーソナリティの発達					
	第11回	ことばとコミュニケーションの発達					
	第12回	知的機能の発達					
	第13回	感情の発達					
	第14回	社会性の発達・道徳性の発達					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		50%		25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期	
科目名	特別支援論 I	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	障害児施設・成人入所及び通所施設・障害者グループホーム・地域生活支援センター・放課後保護サービス等での知的障害児・者支援の中で、身近に体験してきた様々な障害及び病気の特性や知識、それに応じた支援方法はもとより、障害観の変化、法律や制度の変遷を踏まえ、利用者を主体とした支援の意義とその方法について、保育実習指導と関連付けながら学ぶ、実践に役立つ授業とする。					
授業のねらい (到達目標)	1、様々な障害がもたらす学习上・生活上の困難についての基礎的知識が理解できる。2、様々な障害のある子どもに対する支援の具体的方法が理解できる。3、障害児支援を支える理念や制度の歴的変遷、インクルージョン及び合理的配慮について説明できる。					
授業概要	今後、保育や教育の現場には、様々な障害を持つ子どもたちが増えていくことが予想される中、障害の正確な理解と適切な対応は、支援者に不可欠な専門性となっていくことが予想される。この科目では、障害児支援の歴史、合理的配慮を必要とする子どもの保育・教育を支える理念や法律・制度を踏まえ、各障害の症状や特性と支援方法について学ぶ。					
テキスト	「特別支援論 I」(配本テキスト)					
授業計画	第1回	オリエンテーション				
	第2回	障害の概念				
	第3回	障害児保育の歴史①(保育所)				
	第4回	障害児保育の歴史②(施設)				
	第5回	保育の一元化・一体化と障害児保育				
	第6回	日本における障害児教育の歴史				
	第7回	障害の理解と支援 ①知的障害児への支援				
	第8回	障害の理解と支援 ②発達障害児への支援				
	第9回	障害の理解と支援 ③肢体不自由児への支援				
	第10回	障害の理解と支援 ④重度心身障害児への支援				
	第11回	障害の理解と支援 ⑤視覚障害児への支援				
	第12回	障害の理解と支援 ⑥聴覚障害児への支援				
	第13回	障害の理解と支援 ⑦言語障害児への支援				
	第14回	障害の理解と支援 ⑧言語障害児への支援				
	第15回	効果測定				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席  平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期									
科目名	こども理解の理論と方法	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	阿久津 洋巳	実務経験の有無	×											
実務経験教員の経歴	なし													
授業のねらい (到達目標)	こども理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解し、こども理解の方法を解説する。こどもの発達や学び、その過程で生じるつまづきなどに対して、それらの要因を把握するための原理や対応の方法を学んでいく。													
授業概要	幼児教育の特質と関連づけながら、こども理解の基盤となる発達心理学、臨床心理学等の理論を解説する。また、こどもを取り巻く環境とのかかわりや特別支援教育、就学に向けての支援などにおける子ども理解のあり方についても概説する。													
テキスト	こどもの理解と保育・教育相談(みらい)													
授業計画	第1回	幼児理解の理論とそれらを学ぶ意義												
	第2回	発達心理学的見地からのこども理解												
	第3回	臨床心理学的見地からのこども理解												
	第4回	こどもの理解と方法①知的発達のアセスメント												
	第5回	こども理解と方法②認知発達のアセスメント												
	第6回	教育現場における事例検討												
	第7回	保護者支援と地域連携～こども理解に焦点を当てて～												
	第8回	保育とこども理解												
	第9回	記録と評価												
	第10回	幼児期の発達理解と保育の実際												
	第11回	保護者対応												
	第12回	個と集団の理解												
	第13回	特別な配慮を要するこどもと保護者との関わり												
	第14回	専門機関及び小学校との連携												
	第15回	まとめ												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期
科目名	学校・学級経営論	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	佐藤 重勝	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる保育者の資質に基づいて実践的な指導				
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育の動向を理解する</li> <li>2. 学校や教育行政機関の目的とその実現に学校経営の観点から理解する</li> <li>3. 学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解する</li> <li>4. 学級経営に関わる指導力を身につける</li> </ol>				
授業概要	現代の学校教育に関する経営的事項について基礎的な知識を身につけるとともに、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する理解を図る。学級が抱える今日的な課題について理解を深め、学級経営に関わる指導力の獲得を目指す。				
テキスト	学校・学級経営論(姫路大学)				
授業計画	第1回	学校を巡る近年の様々な状況の変化			
	第2回	子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題			
	第3回	近年の教育政策の動向			
	第4回	公教育の目的を実現するための学校経営」			
	第5回	学校評価の基礎理論を含めたPDCAについて			
	第6回	地域との連携を基盤とする開かれた学校づくりの推進の背景			
	第7回	学校における危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性			
	第8回	学校を取り巻く新たな安全上の課題とその取り組み			
	第9回	教育課程における学級経営の意義①			
	第10回	教育課程における学級経営の意義②			
	第11回	教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働			
	第12回	地域との連携・協働による学校教育活動の意義			
	第13回	学級経営の基礎①			
	第14回	学級経営の基礎②			
	第15回	学級経営の基礎③			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(前期)	
科目名	保育の表現技術(ピアノ)	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	川内菜央・寺内めぐみ	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者の学生からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスを行っている。					
授業のねらい (到達目標)	目を同運つ、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける					
授業概要	本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。					
テキスト	姫路大テキスト「こどもと音楽表現」「バイエルピアノ教則本」「保育の四季 幼児の歌110曲集」					
授業計画	第1回	本科目の概要の説明。「こどもと音楽表現」「バイエルピアノ教則本」各テキストと「幼児の歌110曲集」より、テクニックを身につけながら実践で活用できるレパートリーを増やす。個々のレベル把握				
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。				
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。				
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。				
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。				
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。				
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。				
	第8回	中間試験				
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(前期)	
科目名	保育の表現技術(声楽)	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	川内菜央・寺内めぐみ	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスを行っている。					
授業のねらい(到達目標)	目を同運つ、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける					
授業概要	本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。					
テキスト	姫路大テキスト「こどもと音楽表現」「バイエルピアノ教則本」「保育の四季 幼児の歌110曲集」					
授業計画	第1回	本科目の概要の説明。「こどもと音楽表現」「バイエルピアノ教則本」各テキストと「幼児の歌110曲集」より、テクニックを身につけながら実践で活用できるレパートリーを増やす。個々のレベル把握				
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。				
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。				
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。				
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。				
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。				
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。				
	第8回	中間試験				
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
単位認定・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席	総合評価算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期	
科目名	保育の表現技術(言語)	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。					
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領に示された保育内容の領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</li> <li>2. 幼児の発達や学びの過程を理解するとともに、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付ける。</li> <li>3. 模擬授業の実施とその振り返りを通して、保育を実践する力を身に付ける。</li> </ol>					
授業概要	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、子どもが豊かな言語表現活動を行うために必要な児童文化財に関する知識や保育技術の習得を目指す。授業を通して、音や言葉の面白さを知るとともに、わらべうた、言葉あそび、絵本、お話、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアターなど、さまざまな指導技術を学ぶ。さらに、模擬保育を通して、子どもの言葉を育む保育を展開する力を身に付ける。					
テキスト	ことばと表現力を育む児童文化〈第2版〉 萌文書林					
授業計画	第1回	授業の目的と概要、受講の心得等について知る。 幼稚園教育要領の基本と領域「言葉」の内容を確認する。				
	第2回	領域「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに、指導上の留意点を確認する。領域「言葉」における小学校への接続を見据えた保育の展開を知る。				
	第3回	子どもの言葉を育むさまざまな児童文化財を知る。				
	第4回	ことばの発達と遊び いろいろなことば遊びに関心をもつ。				
	第5回	ことばの発達と遊び いろいろなことば遊びを知る。				
	第6回	様々な絵本の種類を知る。子どもの発達に合わせた絵本の選び方を知る。				
	第7回	図書館での教材研究 絵本選び				
	第8回	図書館での教材研究 絵本選び				
	第9回	領域「言葉」を中心とした絵本の読み聞かせの指導案作成				
	第10回	領域「言葉」を中心とした絵本の読み聞かせの指導案作成				
	第11回	模擬保育と振り返り 絵本の読み聞かせを中心に模擬保育と振り返りを行う。				
	第12回	模擬保育と振り返り 絵本の読み聞かせを中心に模擬保育と振り返りを行う。				
	第13回	模擬保育と振り返り 絵本の読み聞かせを中心に模擬保育と振り返りを行う。				
	第14回	模擬保育と振り返り 絵本の読み聞かせを中心に模擬保育と振り返りを行う。				
	第15回	児童文化財を生かしたさまざまな保育実践を知る。 どのような児童文化財を生かした保育が展開されているかを知る。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席  平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度  上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	保育の表現技術(造形)	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	渡邊 恵美	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	高等学校美術科非常勤講師						
授業のねらい (到達目標)	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。						
授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。						
テキスト	新造形表現 理論・実践編						
授業計画	第1回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携(「図画工作」)の学習指導要領					
	第2回	造形教育の思想と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴					
	第3回	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価					
	第4回	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価					
	第5回	教材研究を伴う製作I(えがく)					
	第6回	教材研究を伴う製作I(えがく)					
	第7回	教材研究を伴う製作I(つくる)					
	第8回	教材研究を伴う製作I(つくる)					
	第9回	教材研究を伴う製作Ⅲ(造形あそび)					
	第10回	教材研究を伴う製作Ⅲ(造形あそび)					
	第11回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)					
	第12回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)					
	第13回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)					
	第14回	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)と情報機器及び教材の活用まとめ					
	第15回	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)と情報機器及び教材の活用まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						



# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期									
科目名	保育の表現技術(身体)	授業形態	演習	単位数	1単位									
担当教員	山田 すみ江	実務経験の有無	○											
実務経験教員の経歴	保育士、幼稚園教諭、母親学級講師、スポーツインストラクター経験を生かし、現場で求められる保育者の資質に基づいて実践的な指導を行う。													
授業のねらい (到達目標)	こどもを対象とした運動遊びを計画・実践するために必要な実践的力量形成を目的とする													
授業概要	子どもの運動特性を理解したうえで、様々な運動遊びを実際に行い、それらの指導上の留意点などについて説明する。また、簡単な遊びを計画・実践し評価を行う。													
テキスト	なし													
授業計画	第1回	3歳未満児の運動特性について												
	第2回	3歳以上児の運動特性について												
	第3回	運動遊びの提案①												
	第4回	運動遊びの提案②												
	第5回	運動遊びの提案③												
	第6回	運動遊びの提案④												
	第7回	運動遊びの計画												
	第8回	運動遊びの発表に向けた準備												
	第9回	運動遊びの発表①												
	第10回	運動遊びの発表②												
	第11回	運動遊びの発表③												
	第12回	運動遊びの発表④												
	第13回	運動遊びの発表⑤												
	第14回	運動遊びの発表振り返り・評価												
	第15回	まとめ												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期									
科目名	生活	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	長島 弘一	実務経験の有無	○											
実務経験教員の経歴	公立小学校での36年の勤務経験から、小学校で求められる教師の資質に基づいて実践的な指導を行う。													
授業のねらい (到達目標)	・学習指導要領やテキストから、生活科の授業実践を学び、学習指導の方法を習得することを目指す。													
授業概要	・学習指導要領やテキストから、生活科の新設の経緯、学習指導要領の改訂の意図、生活科の内容を学ぶ。 ・保小における生活保育と小学校における生活科との接続を理解し、小学校での授業の在り方を学ぶ。													
テキスト	生活(姫路大学)													
授業計画	第1回	・第1章 生活科の新設へ では、新設の背景、学習指導要領の改訂の経緯、生活科新設の特性を学ぶ。												
	第2回	・第2章 生活保育の理念 では、生活保育の理念、幼稚園教育要領の5つの領域、就学前教育における生活保育を学ぶ。												
	第3回	・第3章 生活保育と生活科の接続 では、生活保育と生活科の内容を、実例を通してその違いや連携の意義について学ぶ。												
	第4回	・第4章 生活科の教科目標と学年目標 では、教科目標、学年目標の構成、要素について学ぶ。												
	第5回	・第4章 生活科の教科目標と学年目標 では、生活科の特質について学ぶ。												
	第6回	・第5章 生活内容と単元の指導計画並びに実践例① では、内容構成の考え方、各学年の目標について学ぶ。												
	第7回	・第5章 生活内容と単元の指導計画並びに実践例② では、各学年の内容の概略について学ぶ①												
	第8回	・第5章 生活内容と単元の指導計画並びに実践例② では、各学年の内容の概略について学ぶ②												
	第9回	・第5章 生活内容と単元の指導計画並びに実践例③ では、各内容の構成、内容構成の視点について学ぶ①。												
	第10回	・第5章 生活内容と単元の指導計画並びに実践例③ では、各内容の構成、内容構成の視点について学ぶ②。												
	第11回	・第5章 生活内容と単元の指導計画並びに実践例④ では、単元の指導計画並びに実践例について学ぶ①。												
	第12回	・第5章 生活内容と単元の指導計画並びに実践例④ では、単元の指導計画並びに実践例について学ぶ②。												
	第13回	・第6章 生活科学習指導の創造性 では、支援者としての在り方、学習形態の在り方、学習形態の工夫、学習環境の設定を学ぶ①。												
	第14回	・第6章 生活科学習指導の創造性 では、支援者としての在り方、学習形態の在り方、学習形態の工夫、学習環境の設定を学ぶ②。												
	第15回	・第7章 生活科授業における評価の在り方 では、生活科の教科の展開、生活科における指導と評価の一体化を学ぶ。												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	音楽 I (理論)	授業形態	講義	単位数	2 単位		
担当教員	川内 菜央	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	中学校、高等学校での現場経験から、本科目ではおもに音楽理論及び声楽について教授する。						
授業のねらい (到達目標)	感性と表現に関する領域「表現」について理解を深める。 音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身につける。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>感性と表現に関する領域「表現」について学び、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因について理解を深める。</li> <li>音楽理論について学び、理論に基づき音楽を総合的に理解する力を養う。</li> <li>声楽等の演習を通して、音楽指導に関する専門的知識・技能・表現力を身につける。</li> </ul>						
テキスト	「音楽理論」姫路大学、「子どもと音楽表現 I (ピアノ)」姫路大学						
授業計画	第1回	楽譜の基礎知識					
	第2回	楽譜の基礎知識					
	第3回	音名					
	第4回	記号と標語					
	第5回	記号と標語					
	第6回	音程					
	第7回	音程					
	第8回	和声とコード					
	第9回	和声とコード					
	第10回	音階					
	第11回	音階					
	第12回	レポート設題					
	第13回	レポート設題					
	第14回	音楽理論の総合問題					
	第15回	音楽理論の総合問題					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(後期)		
科目名	音楽Ⅱ(ピアノ)	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	石川美穂・川内菜央・寺内めぐみ	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者の学生からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスを行っている。						
授業のねらい(到達目標)	目を同運つ、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける						
授業概要	本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。						
テキスト	姫路大テキスト「こどもと音楽表現」「バイエルピアノ教則本」「保育の四季 幼児の歌110曲集」						
授業計画	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第8回	中間試験					
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
単位認定・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期	
科目名	図画工作 I	授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当教員	渡邊 恵美	実務経験の有無		○		
実務経験教員の経歴	高等学校美術科非常勤講師					
授業のねらい (到達目標)	こどもの表現や発達をイメージしながら、美術・造形の基礎・基本が身につく、実際に役立つような理論と教材研究を体得する。実技においても単に制作するのではなく、子どもの表現、発達、発想を常にイメージし、教育の現場に立った時を考えながら制作活動をする。					
授業概要	単なる美術・造形ではなく、幼児・児童に即した造形表現の教材を視野に入れて、子どもが楽しく造形活動ができる教材のあり方、支援の仕方、指導のあり方についても考えに入れながら、理論と実技の両面から実践的に研究をする。					
テキスト	図画工作 I (姫路大学)					
授業計画	第1回	人と美術造形表現について				
	第2回	美術・造形分野について				
	第3回	色・色彩について①				
	第4回	色・色彩について②				
	第5回	色・色彩について③				
	第6回	形の構成 構成の原理①				
	第7回	形の構成 構成の原理②				
	第8回	形の構成 構成の原理③				
	第9回	いろいろな表現技法について①				
	第10回	いろいろな表現技法について②				
	第11回	いろいろな表現技法について③				
	第12回	立体造形表現①				
	第13回	立体造形表現②				
	第14回	鑑賞				
	第15回	造形教育のまとめ				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期	
科目名	保育原理	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	齋藤 裕	実務経験の有無		×		
実務経験教員の経歴						
授業のねらい (到達目標)	1. 保育の基礎基本および保育所、幼稚園、認定こども園等の施設の役割を理解する 2. 保育の歴史に関する基礎知識を身につけ、保育制度や施設の変遷について理解する 3. 保育に関する様々な思想を学び、それらと関連する多様な保育の理念や実際の保育を理解する					
授業概要	「保育」とは何かという保育の理念に始まり、保育の基本原則と理念を、保育の歴史を学ぶことを通して理解する。また、保育制度や施設の変遷を学び現代の保育のあり方を考える。 さらに、保育に関する様々な思想、多様な理念や実際の保育施設を知り、保育に関する学びを深める。					
テキスト	「保育原理」姫路大学					
授業計画	第1回	1. 保育の意義 保育理念と概念				
	第2回	児童の最善の利益を考慮した保育				
	第3回	保護者との協働				
	第4回	保育の社会的意義				
	第5回	保育所保育と家庭的保育				
	第6回	保育所保育指針の制度的位置づけ				
	第7回	2. 保育所保育指針における保育の基本 養護と教育の一体性				
	第8回	環境を通して行う保育				
	第9回	発達過程に応じた保育				
	第10回	保護者との緊密な連携				
	第11回	倫理観に裏付けられた保育士の専門性				
	第12回	3. 保育の思想と歴史的変換 諸外国の保育思想と歴史				
	第13回	日本の保育思想と歴史				
	第14回	4. 保育の現状と課題				
	第15回	期末試験				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	社会福祉論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	社会福祉士としての現場経験から、保育・福祉の現場で求められる社会福祉について教授する。						
授業のねらい (到達目標)	保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び、社会福祉における子ども家庭支援の視点、制度、方法などについて学ぶ。						
授業概要	子ども家庭福祉との関連の中で、望ましい保育者となるために、社会福祉の意義や歴史の変遷、その運営の制度や技術について理解を深める。						
テキスト	「社会福祉論」 姫路大学						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	社会福祉の理念					
	第3回	社会福祉の歴史の変遷①					
	第4回	社会福祉の歴史の変遷②					
	第5回	社会福祉の制度と法体系①					
	第6回	社会福祉の制度と法体系②					
	第7回	社会保障と関連制度					
	第8回	社会福祉行財政					
	第9回	社会福祉施設					
	第10回	社会福祉の専門職					
	第11回	少子・高齢化社会					
	第12回	地域福祉					
	第13回	ソーシャルワーク①					
	第14回	ソーシャルワーク②					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	社会的養護 I	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	児童養護施設での現場経験から、施設で生活する子どもたちの実際の姿や支援内容について実践的な指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。</li> <li>・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>・社会的養護の現状と課題について理解する。</li> </ul>						
授業概要	望ましい保育者となるために必要な社会的養護の基本的な知識、専門性、価値観を身につける。						
テキスト	「社会的養護」 姫路大学						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	社会的養護の体系					
	第3回	児童虐待①					
	第4回	児童虐待②					
	第5回	子どもの権利擁護					
	第6回	保育士の倫理					
	第7回	日常支援と自立支援①					
	第8回	日常支援と自立支援②					
	第9回	日常支援と自立支援③					
	第10回	社会的養護に関わる専門職					
	第11回	要養護児童の家庭状況①					
	第12回	要養護児童の家庭状況②					
	第13回	社会的養護に関する社会的状況					
	第14回	社会的養護の現状と課題					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						



# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期									
科目名	こどもの理解と援助	授業形態	演習	単位数	1単位									
担当教員	阿久津 洋巳	実務経験の有無	○											
実務経験教員の経歴	なし													
授業のねらい (到達目標)	保育実践、教育実践における、子どもの理解の仕方の基礎と、基本となる援助方法について知る。													
授業概要	保育実践、教育実践における、子どもの理解の意義、視点、方法についての基礎的知識の講義を行う。また、子どもの理解に基づく基本的な援助方法についても概観する。													
テキスト	なし													
授業計画	第1回	子ども理解の意義												
	第2回	子ども理解に基づく保育、教育活動の展開												
	第3回	子どもを理解する視点。生活と遊び												
	第4回	子どもと環境。環境の変化の捉え方												
	第5回	集団における子どもの理解												
	第6回	つまづきや葛藤への理解												
	第7回	共感的理解												
	第8回	子どもを理解する方法①観察												
	第9回	子どもを理解する方法②記録												
	第10回	対話と協働												
	第11回	発達課題と援助												
	第12回	特別な配慮を要する子どもへの援助												
	第13回	就学への支援～発達の連続性～												
	第14回	就学への支援～発達の連続性～												
	第15回	まとめ												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期
科目名	幼児教育課程論	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	高木 亜紀	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭として多くの幼児や保護者と関わった経験、学童保育指導員として小学生の生活や学習に関わった経験、子育てに関する活動(育児サークル主宰、企業による子どもを対象とした職業体験学習など)をもとに授業を行う。				
授業のねらい (到達目標)	乳幼児保育における長期的な見通し、職員全員の共通認識、計画の重要性や作成方法について理解する。PDCAサイクルについて理解し、自身と園全体の保育の見直し、保育の質の向上につながることを学ぶ。				
授業概要	保育の長期的見通し、教職員の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を学ぶ。また、「計画・実践・反省・改善」の関連性についての実例を理解すると共に、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。				
テキスト	「幼稚園教育要領解説 平成30年3月 文部科学省」フレーベル館、「保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省」フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省」フレーベル館、田中亨胤、三宅茂夫編「教育・保育カリキュラム論」みらい				
授業計画	第1回	【幼稚園・保育所・認定こども園について】教科書を見て授業内容と幼稚園・保育所・認定こども園の違いについて学びます。			
	第2回	【全体的な計画について】園でいう計画とは何か。なぜ保育をするには計画が必要なのかを学びます。			
	第3回	【教育課程・全体的な計画の編成方法①】教育課程と全体的な計画とは何か。また、それらが、園の中でどのように編成されるのか、手順を学びます。			
	第4回	【教育課程・全体的な計画の編成方法②】手順、形式、記入内容を学びます。			
	第5回	【教育課程・全体的な計画の編成方法③】編成の際の配慮する点を学びます。			
	第6回	【指導計画との関係について】教育課程や全体的な計画は、全ての指導計画のもとになり、職員全員に共通理解を与えるものであることを理解しましょう。			
	第7回	【指導計画の作成方法】指導計画を作成する時は、子どもの実際の活動や経験をイメージしながら、実践に結びつけやすく、無理のないように具体的に作成することを学びます。			
	第8回	【年間指導計画について】年間指導計画とは何かを理解しながら実際に作成してみましょう。			
	第9回	【月間指導計画について】月間指導計画とは何かを理解しながら実際に作成してみましょう。			
	第10回	【週日案について】週日案とは何かを理解しながら実際に作成してみましょう。			
	第11回	【デイリープログラムについて】日案との違いは何かを理解しながら実際に作成してみましょう。			
	第12回	【保育における記録と反省】計画し、実践し、評価反省をすることにより、次の課題が見つかることを学びます。			
	第13回	【保育における評価と改善】計画し、実践し、評価反省をすることにより、次の課題が見つかることを学びます。反省と評価には様々な方法があることも学びます。			
	第14回	【現代の保育ニーズや他国の教育課程について】目まぐるしく変化する社会と子育てについて学びます。また、他国との保育の違いについて学ぶことにより、他国の良さ、私たちの保育の良さを発見することができます。これから生きる保育者として、日本の保育の課題は何かを考えましょう。			
	第15回	【期末試験】			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10% 出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期									
科目名	保育内容総論	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	原田 明子	実務経験の有無		○										
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育所での勤務経験から、現場で行われている保育と理論が一致する実践的指導を行う。													
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護と教育が一体となった保育、領域の考え方や保育内容を総合的に理解する。</li> <li>・園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育実践と結び付ける。</li> </ul>													
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 領域別に学んだ内容を実際の子どもの姿と結びつけて総合的に理解する。</li> <li>2) 保育所保育指針等に基づく保育内容の基本的理解が深まるようにする。</li> </ol>													
テキスト	姫路大学「保育内容総論」、保育所保育指針													
授業計画	第1回	保育の全体構造(1) 保育とは、幼稚園・保育所・認定こども園とは												
	第2回	保育の全体構造(2) 指針・要領と養護と教育に一体化												
	第3回	保育の全体構造(3) 領域の考え方と乳児保育												
	第4回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(1)環境を通しての保育												
	第5回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(2)遊びによる総合的保育												
	第6回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(3)生活と遊びと保育者の役割												
	第7回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(4)保育者の役割まとめ												
	第8回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(5)幼保小の連携について												
	第9回	科目修了テスト												
	第10回	全体的な計画の作成と指導計画(1)全体的な計画の作成												
	第11回	全体的な計画の作成と指導計画(2)指導計画の作成手順と配慮												
	第12回	保育の評価と保育の記録(1)幼児理解に基づく評価												
	第13回	保育の評価と保育の記録(2)観察記録を書く意味と幼児理解												
	第14回	保育内容の歴史の変遷												
	第15回	期末テスト												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期									
科目名	乳児保育 I	授業形態	講義	単位数	2 単位									
担当教員	原田 明子	実務経験の有無		○										
実務経験教員の経歴	私立乳児園での勤務経験から、現場で求められる乳児保育担当者の資質・能力が培われるよう、実践的指導を行う。													
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の理念と役割を理解する</li> <li>・3歳未満児の発達を理解し、個々の発達を促す保育内容とは何か考える。</li> </ul>													
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳児保育の理念・役割・発達を理解し、学んだことを整理しまとめる。</li> <li>2) 演習をとおして、乳児のかかわり方を知る。</li> </ol>													
テキスト	姫路大学「乳児保育 I」、保育所保育指針													
授業計画	第1回	「赤ちゃんの不思議」を視聴し、赤ちゃんのしらせざる能力を知り、乳幼児に興味をもつ												
	第2回	乳児保育とは 乳児保育の基本と子どもの最善の利益について												
	第3回	乳児保育の基本と支援の利益についてまとめる												
	第4回	乳児保育の歴史と現代における乳児保育の役割と機能①												
	第5回	乳児保育の歴史と現代における乳児保育の役割と機能②												
	第6回	0歳児の発達特徴と保育者の援助												
	第7回	1歳児の発達特徴と保育者の援助												
	第8回	2歳児の発達特徴と保育者の援助												
	第9回	乳児の発達を促す保育者の関わり(事例)愛着・応答的保育・受容・主体について												
	第10回	科目修了テスト												
	第11回	乳児保育と子育て支援												
	第12回	乳児の衛生面・安全面を7考慮した保育のあり方												
	第13回	乳児の生活習慣を育む保育者の援助・配慮について												
	第14回	赤ちゃんの記録づくりを通し、赤ちゃんが保護者にとってどれほど大切かを学ぶ												
	第15回	期末テスト												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	乳児保育Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	原田 明子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	私立乳児園、保育園での勤務経験から、現場で求められる乳児保育担当者の資質・能力が培われるよう実践的指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。						
授業概要	1. グループワークを通し、3歳未満児の発達やそれに沿った保育者の関わりを知る 2. DVDの事例から、子どもの言動や保育者の関わりの意図を個人、グループ、クラス全体で考察する。 3. 養護が教育の一部であること、すべての経験が学びとなっていることを理論的に考察する。						
テキスト	姫路大学「乳児保育Ⅰ」、「日本が誇るていねいな保育」						
授業計画	第1回	乳児保育の基本 乳児の特徴					
	第2回	養護と教育の一体化					
	第3回	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿と乳児保育					
	第4回	乳児の発達① グループワーク					
	第5回	乳児の発達② グループワーク					
	第6回	乳児の発達③ グループワーク					
	第7回	乳児の発達④ グループワーク発表					
	第8回	保育者の関わりと援助① DVDの事例から					
	第9回	保育者の関わりと援助② DVDの事例から					
	第10回	保育者の関わりと援助③ DVDの事例から					
	第11回	環境による保育① グループワーク					
	第12回	環境による保育② グループワーク					
	第13回	環境による保育③ グループワーク					
	第14回	スクーリングテスト					
	第15回	期末試験					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	社会的養護Ⅱ	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	児童養護施設での現場経験から、施設で生活する子どもたちの実際の姿や支援内容について実践的な指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	「社会的養護Ⅰ」で学んだ制度や知識を、実際の事例に当てはめて具体的に理解する。 子どもの権利擁護、子どもの最善の利益について追及する。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの理解をふまえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する。</li> <li>・施設養護や家庭養護の実際について理解する。</li> <li>・社会的養護における家庭支援について理解する。</li> </ul>						
テキスト							
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	子どもの最善の利益、意見表明権、子どもの権利を守る仕組み(演習)					
	第3回	資質と倫理(演習)					
	第4回	施設養護の体系					
	第5回	児童養護施設(演習)					
	第6回	乳児院(演習)					
	第7回	母子生活支援施設(演習)					
	第8回	障害児入所施設(演習)					
	第9回	児童自立支援施設(演習)					
	第10回	児童心理治療施設(演習)					
	第11回	家庭養護・家庭的養護の体系					
	第12回	里親(演習)					
	第13回	地域小規模児童養護施設(演習)					
	第14回	社会的養護の現状と課題					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(前期)		
科目名	教材研究 I	授業形態	演習	単位数	1 単位		
担当教員	円山昭子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	公立保育園35年6か月の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行う						
授業のねらい (到達目標)	絵本や紙芝居の読み語りの基本的な技術を習得する 制作の際必要となる基本的知識技術を学び、保育グッズを実際に制作したり実演方法を考える						
授業概要	絵本や紙芝居の年齢別選び方や 持ち方読み方について学び、実演をする 手遊びモノあそびなどを覚えて実際にやってみる 自分なりの工夫を凝らして保育グッズを作る 出来たら演じて見せ合う						
テキスト	「基本の遊びと広げ方」「すきま時間あそび107」&必要に応じてプリント						
授業計画	第1回	総合学習前期の授業内容・採点方法について 図画工作室の使い方片づけ方 道具箱の中身の説明・使い方・実際に使ってみる					
	第2回	手あそびについて学び、様々な年齢に向けての手あそびの実演を見て 実際にやってみる テキスト「基本のあそびと広げ方」&プリント					
	第3回	絵本の年齢別選び方、持ち方・読み方について 絵本読みの実演					
	第4回	自己紹介や絵本の導入に使える手あそびと、絵本の終わり方					
	第5回	紙芝居の年齢別選び方、持ち方・めくり方・仕掛けについてと読み方の実演					
	第6回	制作のための基本的な知識と指導のポイント・裏技について、 プリントや実際の物を確認しながら、教材の素材と利用のノウハウについて知る					
	第7回	簡単なペープサート・カードシアターなど年齢別に様々な実演を見たり 資料を調べたりして、自分の作りたい物を決められるようにする					
	第8回	制作開始					
	第9回	制作続きから完成まで					
	第10回	子どもたちの前での実践方法を考え、演じて見せ合い、学びの場とする					
	第11回	保育で使用するグッズ第2段の制作 スケッチブックシアター(自己紹介用含む)					
	第12回	〃					
	第13回	〃					
	第14回	完成と演じ方について					
	第15回	〃					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(後期)	
科目名	教材研究 I	授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当教員	円山昭子	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	公立保育園35年6か月の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行う					
授業のねらい (到達目標)	子どもが楽しめるグッズを作り、演じ方を考えて確実に使えるものにする 様々な素材に親しんで保育のポケットを充実させたり技術の向上を図る					
授業概要	保育に役立つグッズ制作や、いろいろな素材を使ったあそびを体験し、その応用を考える 個人やグループで発表の経験を積み、演じ方や基本的な技術を習得する					
テキスト	テキスト「基本の遊びと広げ方」「すきまあそび時間107」とプリント					
授業計画	第1回	「すきま時間あそび107」であそぶ				
	第2回	シャボン玉あそび(校外学習)				
	第3回	シャボン玉の危険や配慮・遊びの広げ方など 次に作るグッズを決める				
	第4回	グッズ制作(手袋・パペット系)				
	第5回	制作の続き 完成した者から、演じ方を考える				
	第6回	発表				
	第7回	タオル遊び				
	第8回	体を動かすあそび・遊戯系				
	第9回	コマ回し大会				
	第10回	パネルシアターとは何か?初心者向けDVDを観る 自分の作りたいものを決める				
	第11回	制作開始				
	第12回	"				
	第13回	"				
	第14回	完成した者から演じる練習、一部発表				
	第15回	発表				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%



# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(前期)	
科目名	実習指導 I	授業形態	演習	単位数	2 単位	
担当教員	高木 亜紀	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭として多くの幼児や保護者と関わった経験、学童保育指導員として小学生の生活や学習に関わった経験、子育てに関する活動(育児サークル主宰、企業による子どもを対象とした職業体験学習など)をもとに授業を行う。					
授業のねらい (到達目標)	保育実習の意義や目的を理解し、実習生としての態度や技術を身につける。また、社会人としてのマナーや言葉遣いを身につける。指導案・日誌を書くための感性と文章力を養う。いつもねらいを持ち、子どもの主体性を尊重した保育ができるよう、授業内で数多くの実践を行いながら柔軟な思考や臨機応変の態度を身につける。					
授業概要	グループ園実習に関することを学びます。ねらいを立て、活動を実際に行いながら学んでいきます。					
テキスト	「実践保育学」日本小児医事出版社、「保育の基本用語」わかば社、「幼稚園教育要領解説 平成30年3月 文部科学省」フレーベル館、「保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省」フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省」フレーベル館					
授業計画	第1回	【保育ってなあに 1日実習【事前】】保育の意味と楽しさを学びます。子どもの世界に入らせてもらうことについて学びます。				
	第2回	【1日実習【事後】】1回目の一日実習の振り返りをしましょう。あなた自身が楽しかったと感じたのはどのようなことですか。子ども達が楽しそうにしていたことはどのようなことですか。気になったことは何ですか。				
	第3回	【1日実習2事前】実習ついてしおりを読みます。実習の際の注意点、準備するものについて学びます。				
	第4回	【1日実習2事後】1日実習2の振り返りをしましょう。子ども達の様子で気になったことはありますか。				
	第5回	【2日間実習【事前】】1日実習2の振り返りをもとにめあてを立てます。観察実習・参加実習の方法を再確認します。観察実習はどのようなことに気を付けて見たら良いのかを学びます。				
	第6回	【2日間実習【事後】】2日間実習の振り返りをしましょう。記録をしてみましょう。初めて聞く言葉が出てきますので、覚えるようにします。				
	第7回	【2日間実習1 事後】日誌添削をもとに、日誌の書き直しをします。間違えやすい漢字、使えない語句などについて学びます。				
	第8回	【2日間実習2 事前】観察とはどのような視点で行えばいいかを理解します。前回の反省をもとに次回のめあてを考えます。				
	第9回	【2日間実習2事後】2日間実習の振り返りをしましょう。前回と違う点は何でしょう。				
	第10回	【2日間実習2 事後】日誌添削をもとに、日誌の書き直しをします。間違えやすい漢字、使えない語句などについて学びます。				
	第11回	【1日実習3 事前】実習方法を再確認します。				
	第12回	【1日実習3事後・絵本の読み聞かせについて】1日実習の振り返りをします。絵本の読み聞かせをします。声の大きさ、高さ、声色、座り方、ページのめくり方、めくる速さなど、配慮する点について学びます。				
	第13回	【指導案の書き方】指導案とは何でしょう。指導案の重要性、書くことの意味を理解します。指導案の書き方を学び、実際に書いてみます。				
	第14回	【指導案の書き方】指導案の書き方を学び、実際に書いてみます。指導案の表現方法を学びます。				
	第15回	【指導案の書き方】指導案の書き方を学び、実際に書いてみます。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(後期)	
科目名	実習指導 I	授業形態	演習	単位数	2 単位	
担当教員	高木 亜紀	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭として多くの幼児や保護者と関わった経験、学童保育指導員として小学生の生活や学習に関わった経験、子育てに関する活動(育児サークル主宰、企業による子どもを対象とした職業体験学習など)をもとに授業を行う。					
授業のねらい (到達目標)	保育実習の意義や目的を理解し、実習生としての態度や技術を身につける。また、社会人としてのマナーや言葉遣いを身につける。指導案・日誌を書くための感性と文章力を養う。いつもねらいを持ち、子どもの主体性を尊重した保育ができるよう、授業内で数多くの実践を行いながら柔軟な思考や臨機応変の態度を身につける。					
授業概要	グループ園実習に関することを学びます。ねらいを立て、活動を実際に行いながら学んでいきます。					
テキスト	帆足英一監修「実践保育学」日本小児医事出版社、長島和代編「保育の基本用語」わかば社、「幼稚園教育要領解説 平成30年3月 文部科学省」フレーベル館、「保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省」フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省」フレーベル館					
授業計画	第1回	【お楽しみ会・つくってあそぼうの準備】グループごとに準備をします。ねらい、必要な物、必要な時間、配慮する点について考えます。				
	第2回	【お楽しみ会・つくってあそぼうの準備】グループごとに準備をします。ねらい、必要な物、必要な時間、配慮する点について考えます。				
	第3回	【お楽しみ会ORつくってあそぼう】グループごとに発表します。ポイントは、「クラスメイトの反応を見ながら臨機応変に行う」ことです。				
	第4回	【お楽しみ会ORつくってあそぼう】グループごとに発表します。ポイントは、「クラスメイトの反応を見ながら臨機応変に行う」ことです。				
	第5回	【遊びの指導案】お楽しみ会の内容で指導案を作成してみます。お楽しみ会で上手くいかなかった点があれば、そこが配慮する点になります。子どもの年齢についても考えます。				
	第6回	【遊びの指導案】お楽しみ会の内容で指導案を作成してみます。お楽しみ会で上手くいかなかった点があれば、そこが配慮する点になります。子どもの年齢についても考えます。				
	第7回	【制作の指導案】つくってあそぼうの指導案を作成してみます。上手くいかなかった点があれば、そこが配慮する点になります。材料の準備が年齢にあっていたかどうか確認します。				
	第8回	【制作の指導案】つくってあそぼうの指導案を作成してみます。上手くいかなかった点があれば、そこが配慮する点になります。材料の準備が年齢にあっていたかどうか確認します。				
	第9回	【1週間実習】事前】実習についてしおりを読みます。準備するもの、心構えについて再確認しましょう。				
	第10回	【1週間実習】事後】1週間実習の振り返りをしましょう。うまくできたこと、ご指導いただいたことを記録することにより、学びが深まります。次の実習の目標に繋げましょう。				
	第11回	【1週間実習】事前】添削後の日誌を直します。間違えた漢字や表現方法について、正しいものを覚えるようにしましょう。				
	第12回	【1週間実習】事前】制作準備と実技をします。材料の選び方や準備の仕方について学びます。実技は、「目の前の子どもに合わせる」ことを心がけましょう。				
	第13回	【1週間実習】事前】制作準備と実技をします。材料の選び方や準備の仕方について学びます。実技は、「目の前の子どもに合わせる」ことを心がけましょう。				
	第14回	【1週間実習】事前】書類や部分実習の最終確認をします。しおりの内容も確認しましょう。自分の目標についても再確認します。				
	第15回	【1週間実習】事後】1週間実習の振り返りをします。また、今年度の実習の反省もしましょう。反省をして記録しておくことにより、実習生としての質が向上します。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年
科目名	実習	授業形態	実習	単位数	2単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい (到達目標)	<p>1. 実習生の姿勢・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に関するマナーや職業倫理について知る。</li> <li>・実習を通して、子どもたちと一緒に遊びながら子どもと関わることの楽しさを味わい、保育者の仕事に関心を深め期待を高める。</li> <li>・提出物は期日を守る。</li> </ul> <p>2. 知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活の一日の流れを理解する。</li> <li>・子どもの発達過程を理解し、保育環境や援助の在り方についても考えてみる。</li> <li>・簡単な保育実技を身につけ、グループ園で体験してみる。</li> </ul> <p>3. 実習日誌</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日誌の意義、記入上の諸注意について学び理解する。</li> <li>・メモのとり方や日誌の書き方を学び、グループ園実習を通して実際に日誌を書いてみる。</li> </ul> <p>4. 指導案</p>				
授業概要	<p>グループ園実習を通して、学校で学ぶ倫理と園での保育実践のすり合わせをしながら、子どもの発達や保育者のかかわりを体験的に理解し、様々な技術を習得する。また、社会人としての道義・礼節・常識についても気づき、身につける。</p>				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づき)及び実習日誌を総合して評価をする。</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する</p>				

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	保育内容(表現)	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	小見 英晴	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭7年 リトミック指導16年						
授業のねらい (到達目標)	保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。						
授業概要	幼稚園教育要領、保育所諸育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。						
テキスト	「改訂4版 幼児の音楽教育法 美しい歌声をめざして」 ふくろう出版 吉富 功修・三村 真弓 編著						
授業計画	第1回	領域「表現」についての基本的な考え方 「表現」についての洞察					
	第2回	領域「表現」の指導案において求められる表現の捉え方と評価 小学校の教科とのつながりについての理解					
	第3回	基礎リズム 基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点					
	第4回	幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解					
	第5回	基本動作 幼児の心情・認識・思考・動きをふまえた基本動作					
	第6回	日常生活が表現につながる可能性に気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法					
	第7回	CD等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解					
	第8回	童謡やわらべうたについての多様な振付の実践 幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践					
	第9回	楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成					
	第10回	楽器の取り扱いと身近な素材を使った楽器製作 指導案作成の基礎を理解し、指導案の作成					
	第11回	領域「表現」と幼保小のつながり					
	第12回	オノマトペ(擬態語・擬音語・擬声語)の表現方法について					
	第13回	表現する力を育てるための保育者の役割と援助について					
	第14回	絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践 保育構想発展のための相互発表による振り返り					
	第15回	リズム遊びを用いた創作発表					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
			50%	25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							